

福井地域の女性キャリアの向上と教育に関する事業

事業責任者： 竹本 拓治（産学官連携本部・准教授）

概 要	<p>本研究会では、平成 25 年度（1 年目）の地域貢献事業計画に従い、女性のキャリア向上の意識の醸成に関する「男子にも読んでほしいふくい女子のキャリアデザインノート」を作成した。1 年目の調査、同ノート作成を通じ、自治体および産業界における本事業への期待の大きさを受け止め、本 2 年目はそのような産・官の期待を、いかに学（現場）に落とし込むかを試みた。具体的には、同ノートを用いて県内外の生徒に対し出張授業を行った。県内外の双方の視点を踏まえ、授業後に無記名式のアンケートを取り、その結果から更なる内容の充実を目指した。調査研究を進めていく中で、本課題の解決には、数値の分析や、先行研究の見直し、まとめといったレベルの枠を超えた、社会の変革の必要性を認識した。同ノートの更なる充実を行った結果、2015 年夏に出版の運びとなった。</p>
関連キーワード	<p>女性のキャリア、キャリアデザイン、アイデンティティ、イノベーション</p>

事業の背景および目的

現政権では、女性管理職等比率数値の目標化と法整備がなされている。しかし賃金格差等は依然として存在する。本事業は量的な数値成果に加え質的な成果を目指す。

本研究会では、平成 25 年度（1 年目）の地域貢献事業計画に従い、女性のキャリア向上の意識の醸成に関する「福井の女性のためのキャリアデザインノート」を作成した。ノート作成を進める際、自治体、産業界から、「男性も読める内容」「国や自治体の政策の理解」等の意見を頂いたため、それらを内容に取り入れ、ノート名を「男子にも読んでほしいふくい女子のキャリアデザインノート」（以下「同ノート」）とした。同ノートは、一般的なキャリアデザインノートとは一線を画している。県下の女性のロールモデル、本県の特長、わが国と世界を比較解説し、啓蒙する内容とした。

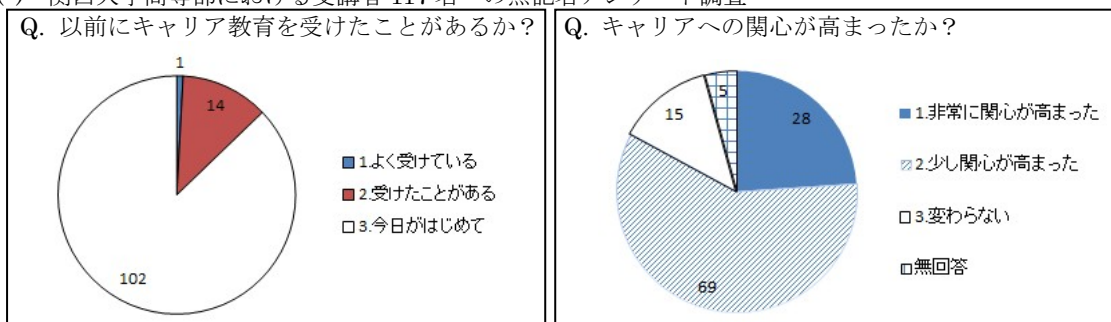
前年度の調査、同ノート作成を通じ、自治体および産業界における本事業への期待の大きさを受け止めた。本 2 年目はそのような産・官の期待を、いかに学（現場）に落とし込むかを試みた。

本事業を行うことで、県下の女性のキャリア向上につながることに加え（福井地域のキャリア貢献）、福井地域の女性のロールモデルや現状を知り、愛郷心を醸成すると共に（福井地域のアイデンティティ貢献）、「ふくい女子」が自らのキャリアデザインの気づきにより、都心立地やブランドに惑わされることなく、明確な目的志向による大学進学意識をもつことになる（福井地域の大学等への貢献）。

事業の内容および成果

本事業である平成 26 年度（2 年目）は、同ノートを用いて県内外の生徒に対し授業を行った。県内外の双方の視点を踏まえ、授業後に無記名式のアンケートを取り、その結果から更なる内容の充実を目指した。

- ・ 2014 年 6 月 国際交流会館、福井県高等学校進路指導大会（福井市）にて、1 年目作成同ノートの説明
 - ・ 2014 年 8 月 福井大学教員免許状更新講習（福井市）にて、授業における同ノートの配布と使用
 - ・ 2014 年 11 月 関西大学高等部（大阪府高槻市）にて、同ノートを用いたキャリア教育授業を実施(*)
 - ・ 2015 年 1 月 敦賀市立威新小学校（福井県敦賀市）にて、同ノートを用いたキャリア教育授業を実施
- (*) 関西大学高等部における受講者 117 名への無記名アンケート調査



調査研究を進めていく中で、本課題の解決には、数値の分析や、先行研究の見直し、まとめといったレベルを超えた、社会変革の必要性を認識した。研究会における話し合い、出前授業によるアンケートや自治体、産業界からの意見をもとに、同ノートの更なる充実を行った。それらの過程と考え方は以下の通りである。

わが国における今の経済社会は、確かに多く部分が男性中心である。女性のキャリアについて、受け入れ側の経済社会を構成している男性が、まずは個々に気づきを得なければいけない。男性は自分たちの世界に女性を受け入れることで、自分たちの社会が大きく変わり、そのメリットを享受できているのだろうか。また、果たして女性はみな活躍したいと思っているのだろうか。このような「気づき」に係る根本的な問題を考察せずして、女性に活躍の場を用意するという方針だけを掲げても、成功するはずがない。

人の行動を変えることが難しいならば、その人の行動を変えるのではなく、その人の行動が自ずと変わるような仕組みと社会が必要である。研究会が女性のキャリアを研究調査していく中で、たどり着いた結論はこの点であった。女性の活躍における国際比較からの日本の特殊性を鑑み、国際的で客観的なバランス感覚の必要性、地域への愛郷心を育むための根本となるアイデンティティ、社会を変革するためのイノベーションの思考、これらに共通する気づきというキャリア教育の根本的な要素を加え、内容をさらに発展させた。女性が日本の社会を変える鍵であることを念頭に、私たち全員が自ずとキャリアを変えるような気づきを得るには、どのようにすれば良いか、どのようにあれば良いか、そしてそのための精神と方法をキャリア・アントレプレナーシップ論としてまとめた。

本企画は出版社の賛同を得て、商業出版を行う運びとなっている。内容と目次は以下の通りである。

キャリア・アントレプレナーシップ論

- 地域を創造するキャリアのデザインと真の男女共同参画社会の構築 (目次)

はしがき (竹本)

第1部 地域にイノベーションを生み出すキャリア・アントレプレナーシップ

第1章 国際社会からみるキャリア (竹本) -客観的なバランス感覚をもちキャリアを構築する

第2章 キャリア・アイデンティティ (竹本) -アイデンティティを確立しつつ多面的な視点をもつ

第3章 フィールドワークのエッセンス (越智) -質的な社会調査法をキャリアに取り入れる

第2部 地方を創成するソーシャル・イノベーションに向けたキャリアの考え方

第4章 ファイナンシャル・リテラシー (佐藤) -ファイナンスの知識を社会的課題に活かす

第5章 クラウドファンディングの活用 (竹本) -ファイナンススキームを地域の創成に応用する

第6章 知財とイノベーション (岡田) -知財学習からソーシャル・イノベーション思考を養成する

第7章 社会起業とキャリア (宮井) -自分と地域社会を元気にする

第3部 これからの社会を変革する女性のアントレプレナーシップ

第8章 アントレプレナーシップとキャリア (竹本) -アントレプレナーシップが社会を変える

第9章 ライフコースとキャリア (越智) -男女の労働力率を比較する

第10章 男女共同参画社会におけるキャリアデザイン (岡田) -ソーシャル・イノベーションを生む能力を高める

第11章 家計とキャリア (佐藤) -ライフサイクルと給与からみる

第4部 現代社会の変容とキャリア・アントレプレナーシップ

第12章 女性の視点が生み出す多様な製品 (越智) -ユーザビリティやアクセシビリティから生活の快適性を追求する

第13章 女子文化とビジネスの形 (宮井) -自分の好きなことを仕事にする

第14章 ゆるいコミュニケーションとマニアックな市民 (若新) -「おしゃべり」の解放が、地域社会の日常を面白くする

第15章 ICTとゲームがもたらす可能性 (竹本) -ICTとゲームで地域の社会的課題を解決する

参考文献・添付資料および特記事項等

【添付資料】

- ・関西大学高等部ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/senior/2014/11/post-177.html>
- ・敦賀市立威新小学校ホームページ http://edu.ton21.ne.jp/kanshin/mu1hsn2ra-27/#_27
- ・敦賀市立威新小学校一学級だより
- ・本学産学官連携本部ホームページ <http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/report/detail.jsp?id=6782>
<http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/report/detail.jsp?id=6922>
- ・竹本拓治編著『キャリア・アントレプレナーシップ論 - 地域を創造するキャリアのデザインと真の男女共同参画社会の構築』萌書房 (2015年夏出版予定) 初校

(ホームページの確認日は2015年3月28日)